

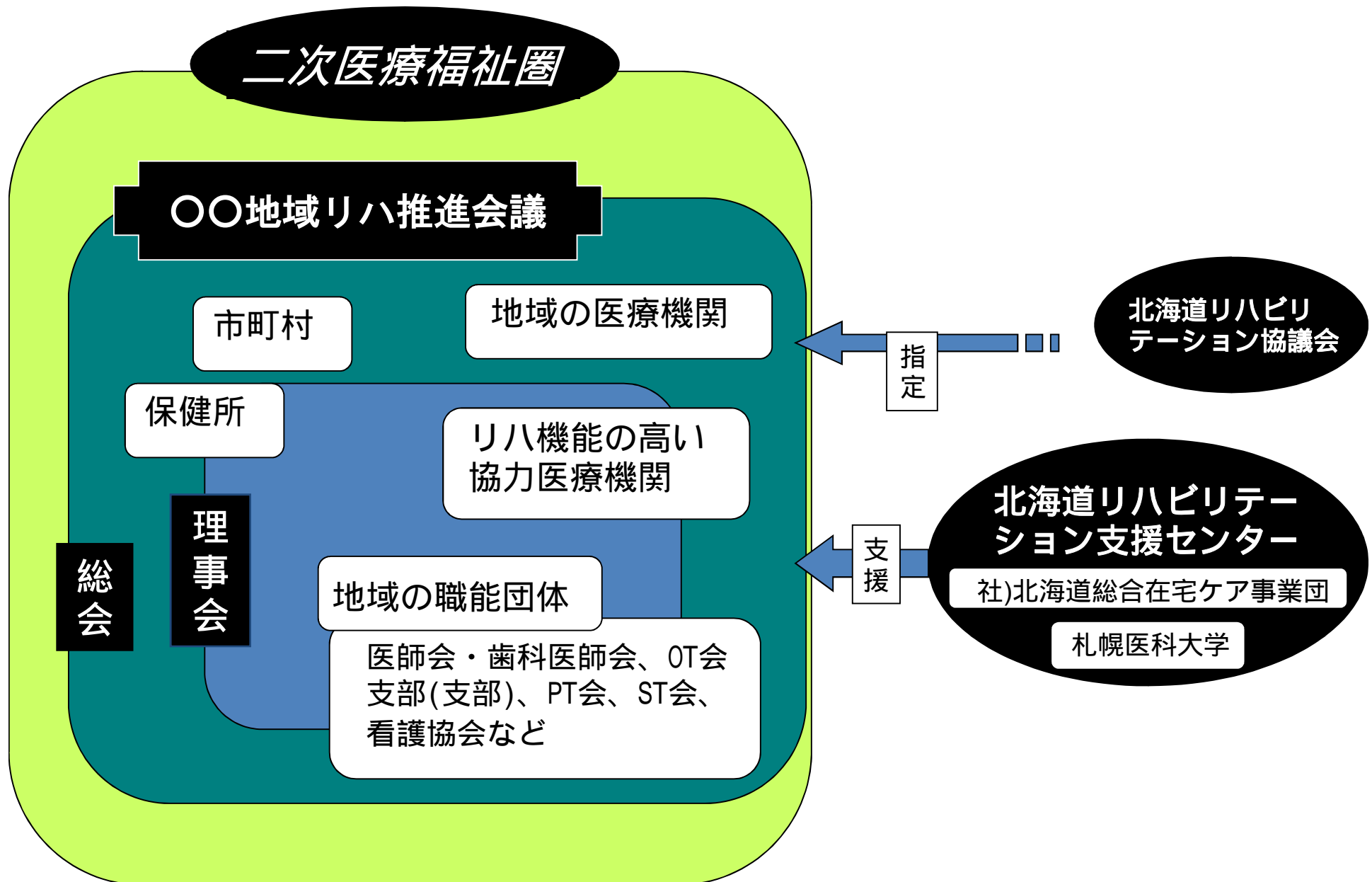
北海道リハ支援センターの活動状況 —第7報—

# 「北海道地域リハビリテーション 広域支援センター抱える課題」

## 北海道リハビリテーション支援センター

主演者 : 菊地啓介 社)北海道総合在宅ケア事業団  
共同演者 : 石合純夫 札幌医科大学  
佐々木雄一 札幌医科大学  
岡田しげひこ 社)北海道総合在宅ケア事業団

# 北海道のシステム

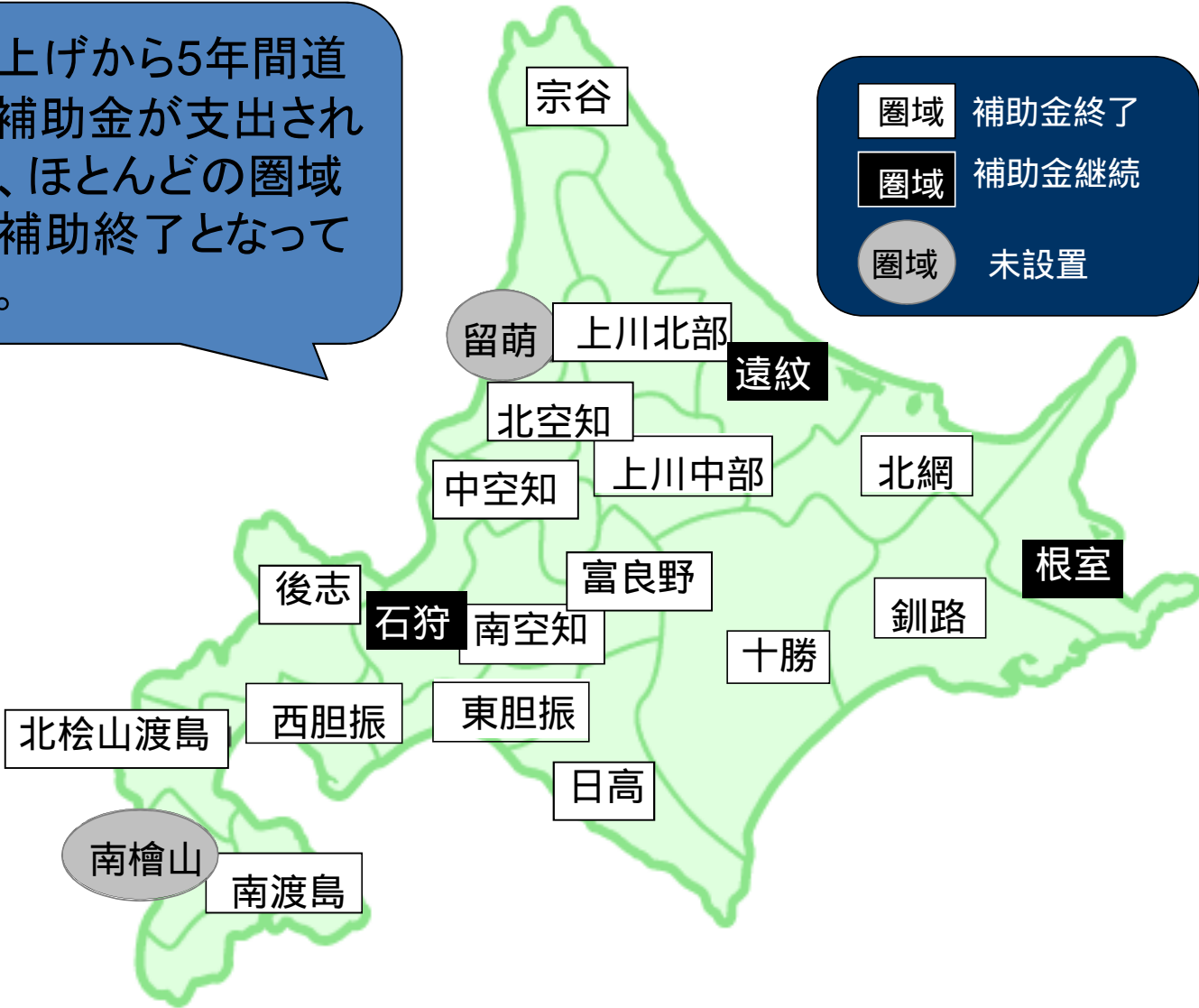


# 道内 地域リハ広域支援センター (〇〇地域リハ推進会議) 設置状況 (h22.3月現在)

立ち上げから5年間道  
から補助金が支出され  
るが、ほとんどの圏域  
では補助終了となっ  
ている。

圏域 補助金終了  
圏域 補助金継続  
圏域 未設置

年度 (平成)	センター 指定数
14年度	4
15年度	4
16年度	5
17年度	3
18年度	2
19年度	0
20年度	0
21年度	1
22年度	2(予定)



# アンケート調査

## 【目的】

広域センターの運営に関して、どんな活動の困難さがあるのか把握する

## 【方法】

平成21年12月に道内の広域センター18カ所を対象として、アンケートを実施した(回収率100%)。

調査項目は、活動目標・取り組み内容・問題点等とし自由記載により回答を得た。

# 課題・ 問題点

## 運営

- ◎活動資金の調達
- ◎会員・会費の取り扱い
- ◎運営委員、事務局の負担が大きすぎる

- ◎専従者がいないこと
- ◎事業に積極的に参加してくれるスタッフがいらない
- ◎会員や地域によって会への認識・参加にばらつきがある
- ◎活動地域が偏ってしまい、周辺町村への活動がしにくい
- ◎行政との連携がとれていない
- ◎他のネットワーク・事業との協同・連携・役割分担が必要

## 推進

- ◎活動周知・啓発、「地域リハの理解」が進んでいない
- ◎どうしたら多職種の参加を促し、問題点・活動方針・目標を共有できるか
- ◎（活動の浸透に伴い）圏域としての取り組みが見えにくい

- ◎地域リハ推進のための手法が不明確
- ◎住民を対象とした活動ができていない
- ◎地域関係者主体のまちづくり的活動にまだなっていない

# 新規立ち上げ圏域での 事業実施に対する懸念

- ◎メリットに対する疑問
- ◎事務負担に対する事務部門の懸念
- ◎地域人材難による講師派遣等に対する負担増の懸念

- ◎市町村合併協議による自治体間での不協和音
- ◎救急医療体制構築に伴う医療機関間・医師会とのしこり
- ◎協力すべき職能団体(PT・OT・ST・ケアマネ)の下部組織がない
- ◎協力すべきリハ医療機関等が極端に少ない

- ◎人的資源が乏しい
- ◎地域が広く圏域として一体的な活動が困難
- ◎過疎化伴う高齢化と人口流出
- ◎サービス機関が少なく選択肢がない

# 活動内容での課題比較

## 街づくり的地域リハ活動 推進の8ステップ(旧)

- 1、仲間で共通理念をつくる
- 2、街の資源をさぐる
- 3、資源を分析
- 4、問題点、必要なことをさぐる
- 5、戦略を練る。優先順位を決定
- 6、多彩な領域に“組合”を作りニーズを出し合い、問題解決
- 7、領域同士、組合同士の融合
- 8、できれば資源を開発

### 従来型(知識伝達型研修会中心)の活動圏域

- ・地域で連携そのものの意識が低い
- ・市町村の参画が乏しい
- ・活動が浸透しない
- ・方向性が見えない
- ・資金の確保

「技術研修」「リハ専門職の講師派遣」が中心の事業展開

### 街づくり的(目標指向的)活動圏域

- ・(課題把握を進めてきたが)地域の課題をまだ十分把握していない
- ・既存のネットワークとの連携
- ・課題が見えだす中で、情報の共有の問題が浮き彫り
- ・保健所との連携
- ・資金の確保

地域の課題分析、ネットワーク作り、目標指向型の事業

# 【まちづくり的地域リハ推進活動】 「推進の8ステップ」 のマニュアル化



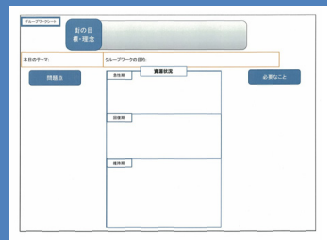
## グループワークの手順 Step1

- 事前準備1**
  - ◎地域の資源・ネットワークなどについて調べておく
  - ◎わかる範囲の地域の課題を検討しておく
  - ◎地域の協力者(地域支援者)をピックアップする
  - ◎地域支援者と地域の課題について意見交換の場を設ける
- 事前準備2**
  - ◎「地域ケア・連携構築などについての研修」企画を立てて広報する
  - ◎研修会に合わせて行うグループワークのテーマを決めておく
  - ◎参加予定者を地区ごとの6~8名のグループ分けしておく
  - ◎地域支援者にグループファシリテーターとして協力してもらい、各グループに配置するようにする
  - ◎また、全体のファシリテーターについても3~4名決めておく
- 当日の準備**
  - ◎グループファシリテーター、全体ファシリテーター、全体司会で進行について打ち合わせを行う
  - ◎発表時に使用するグループワークシート、OHP、プロジェクターなどを用意する

- グループファシリテーターの役割**  
グループワークの方法について説明する。最初に司会・書記・発表者を決める手続きを進め、グループワークの進行を促す。
- 全体ファシリテーターの役割**  
グループワークの進行を見守り、質問対応や時間管理を行う。また、グループ発表時のグループをピックアップする
- 全体司会の役割**  
グループワークのオリエンテーションや発表を仕切る。

## グループワークの手順 Step2

- 研修会**
  - ◎「地域ケア・連携構築についての研修会(仮)」を実施し、地域の資源状況・問題点などの情報を提供  
→「なんとかしないといけないべき」という意識を高める
- オリエンテーション**
  - ◎全体司会者によってグループワークの方法の説明する  
A.実施手順 B.グループワークのお約束
- グループワーク**
  - A.実施手順
    - I.準備(5分)
      - ①まず自己紹介
      - ②司会・書記・発表者を決める
      - ③「街の目標・理念」を決める(例:たとえ障害があってもイキいき過ごす街づくり)
    - II.「資源状況」(15分)
      - ④テーマに沿った資源状況(例:急性期・回復期・維持期)を書きだす。  
→地区外にある物は赤○で囲む。
      - ⑤地区にないサービスも書いてみる(例:夜間ホームヘルプ、鍛えるデイサービス、訪問リハ、胃ろうのデイサービスなど)
    - III.「問題点」(20分)
      - ⑥地区の「問題点」を書きだす
    - IV.「必要なこと」(20分)
      - ⑦問題点に対応した「必要なこと」を考える
      - ⑧「必要なこと」の優先順位・作戦を考える
      - ⑨書記はどんどん書きとめていく
    - V.グループ発表(20分)



- B.グループワークのお約束**
- ◆専門用語禁止
  - ◆本音でトーク
  - ◆うらみっこなし

- 事後**
- ◎まとめておく
  - ◎何回か実施していく
  - ◎活動の目標・手順を決める
  - ◎地域支援者を増やす
  - ◎支援者の組織化を図る



# リハ支援センターとして今後の課題

- 「地域リハ活動」の啓発と浸透
- 地域リハ推進のメリットおよびデメリットの提案  
能力の強化
- ネットワーク化を促すための「街づくり的手法」  
の推進